



埼玉県のマスコット コバトン

埼玉県 獣医師会 会報

第 629 号

平成28年 3 月20日編集

発 行 所
公益社団法人 埼玉県獣医師会
〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町1-340
(埼玉県農業共済会館内)
電 話 048(645) 1 9 0 6
F A X 048(648) 1 8 6 5
E-mail : s-vma@vesta.ocn.ne.jp
URL : <http://www.saitama-vma.org/>
振替口座 00110 - 9 - 195954番

発行責任者 高 橋 三 男

編集責任者 大 橋 邦 啓

印 刷 所 (株)アサヒコミュニケーションズ

記 事 の 内 容

公益社団法人埼玉県獣医師会

第68回定時総会及び懇親会等のご案内

(予告)..... 1

平成27年度日本獣医師会獣医学術学会

年次大会(秋田)開催される..... 2

会務報告

平成28年度集合狂犬病予防注射関係資材

売買契約会..... 6

第1回開業部会第1・第2運営委員会

(合同)..... 6

第4回狂犬病予防委員会..... 8

第2回班長会議..... 8

新聞紙上で集合狂犬病予防注射の実施を

啓発..... 9

第4回総務委員会..... 9

ひろば

新入会員の抱負..... 10

西支部学術講習会開催報告..... 10

東支部研修旅行開催報告..... 11

第133回埼玉県獣医師会ゴルフ同好会

コンペ結果報告..... 11

切り抜きニュース

○春なのに 姿消す生き物

－温暖化影響か 観測休止続出－ 12

○県内最古 縄文犬の骨発見

－蓮田の黒浜貝塚－ 12

○iPS から目の主要細胞

－角膜も、動物で機能－ 13

埼玉県獣医師会学術広報版 14

事務局より

事務局メモ..... 15

編集後記 16

公益社団法人 埼玉県獣医師会 会員憲章

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は、それぞれの職域において、その責務を遂行し、県民の福祉増進に寄与するため、ここに会員憲章を定めます。

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は

1. 動物の生命を守り、ひとびとの生活を豊かにしよう
1. 獣医学術を研鑽向上し、確信を持って業務に邁進しよう
1. 動物愛護思想を向上し、心豊かな生活をしよう
1. 環境衛生を向上し、福祉増進の実をあげよう
1. 職域を尊重し、倫理の昂揚をはかろう

(予告)

**公益社団法人埼玉県獣医師会
第68回定時総会及び懇親会等のご案内**

日 時 平成28年 6 月 8 日 (水)

場 所 大宮ラフォーレ清水園 3 階
さいたま市大宮区東町 2 - 2 0 4
電話 0 4 8 - 6 4 3 - 1 2 3 4

受 付 午後 1 時から

内 容 午後 1 時20分～ 埼玉県獣医師政治連盟総会
午後 2 時～ 埼玉県獣医師会総会

(主な議案)

- ① 平成28年度事業計画・収支予算に関する件
- ② 平成27年度事業報告・収支決算の承認に関する件

午後 5 時～ 懇親会 (会費 5,000円)

※着席にて開催

(主な来賓：敬称 略)

埼玉県知事、埼玉県議会議長、埼玉県議会議員
さいたま市長、さいたま市議会議長、さいたま市議会議員
衆・参国会議員、日本獣医師会会長及び関係団体の長 等
約250名

総会議案等、詳細な内容につきましては、次号(第630号 平成28年 4 月20日編集)でお知らせしますが、
会員各位におかれましては、事前に日程等調整の上、多数の出席をお願いします。

(出欠席報告ハガキは、次号に同封します。)

平成27年度日本獣医師会獣医学術学会 年次大会(秋田)開催される

平成28年2月26日(金)から28日(日)までの3日間、日本獣医師会が主催する平成27年度獣医学術学会年次大会(秋田)が、秋田県獣医師会の共催と日本獣医学会の企画協力により秋田市の「秋田キャッスルホテル」や「秋田アトリオン」など秋田駅周辺の施設を会場に、全国から会員等2,300名が参加して開催されました。

この大会では、獣医学術学会として日本産業動物獣医学会、日本小動物獣医学会、日本獣医公衆衛生学会の三学会が開催され、全国9ブロックで地区学会長賞を受賞した演題の講演をはじめ、優れた研究の発表や最新の情報を題材にしたシンポジウムなどが企画されました。



メイン会場となった「秋田キャッスル」

1 地区学会長賞受賞講演

大会1日目の26日(金)は、午後1時から、獣医学術地区学会で地区学会長賞を受賞した研究演題が発表されました。各学会での発表演題数などは次のとおりです。

(1)日本産業動物獣医学会

発表演題数 20題(うち関東・東京合同地区 2題)

学会長 佐藤 繁 岩手大学農学部教授

(2)日本小動物獣医学会

発表演題数 22題(同 2題)

学会長 佐藤れえ子 岩手大学農学部教授

(3)日本獣医公衆衛生学会

発表演題数 13題(同 1題)

学会長 丸山総一 日本大学生物資源科学部教授

2 日本獣医師会獣医学術賞の発表と授与

大会2日目の27日(土)午後1時15分からは、平成27年度日本獣医師会獣医学術賞の発表と賞状の授与が行われました。

授与式は日本獣医師会 古賀俊伸事務局長の司会により進行され、藏内勇夫会長の挨拶の後、獣医学術功

績者選考委員会委員長の酒井健夫副会長から獣医学術賞の受賞者が発表されました。

獣医学術賞は、産業動物・小動物・公衆衛生の部門ごとに、地区学会長賞受賞講演の中から選ばれる獣医学術学会賞と「日本獣医師会学会学術誌」への投稿論文の中から選ばれる獣医学術奨励賞、並びに獣医学術の発展に功績のあった者に贈られる獣医学術功労賞の3つです。

残念ながら、本県からの受賞がありませんでしたが、他県の受賞者には賞状が授与されるとともに、協賛会社から副賞が贈られました。



授賞式で挨拶する藏内勇夫日本獣医師会会長



受賞者を発表する酒井健夫日本獣医師会副会長

なお、地区学会長賞受賞講演の中から選ばれた獣医学術学会賞の受賞者は次のとおりです。

(1)産業動物部門

- ・「大腸菌群による甚急性乳房炎に対する乳房内冷却ならびに抗菌性物質・消炎鎮痛剤の乳房内局所投与療法の検討」 佐々木恒弥ほか(岩手県)

(2)小動物部門

- ・「臨床現場における犬のTAT測定の有用性の検討」 福岡 玲ほか(兵庫県)

(3)公衆衛生部門

- ・「リケッチア感染症(つづが虫病、紅斑熱)の迅速検査法体系の構築」 川森文彦ほか(静岡県)

3 シンポジウム及び市民公開講座など

大会期間中、地区学会長賞受賞講演のほかにも多くの研究発表やシンポジウム、学校動物、市民公開講座が開催されました。

近年において話題を呼んでいる課題や本会会員の先生方が関係した発表等を中心に紹介します。

26日(金)午後1時から、日本獣医師会シンポジウムとして、「マイクロチップ装着活動の展開－平成30年改正に向けて－」の講演が5人の講師で行われました。環境省の則久雅司動物愛護管理室長から「我が国における個体識別の取り組みと課題」についての基調講演が行われた後、日本医師会における取り組みの経緯等のほか、自治体、獣医療及び動物愛護福祉の立場からの期待と課題についての講演があり、最後には、さらなる装着推進に向けての総合討論が行われました。

27日(土)9時から、日本小動物獣医学会の教育講演「いまさら聞けない化学療法の使い方」の中で、本県小林哲也先生(団体支部)から「代表的な悪性腫瘍に対する各種プロトコル」と題して発表がありました。

また、同時間に日本獣医師会と日本医師会との共催で「One Healthを考える」シンポジウムが開催され、世界獣医学協会のJohnson Chiahg (ジョンソン チャン) 副会長とアジア獣医師連合会のAchariya Sailasuta (アチャリア サイラスタ) 事務局長によるそれぞれのOne Health戦略のお話があり、それに引き続いて、日本医師会の小森 貴常任理事による日本医師会の活動戦略のお話と、日本獣医師会の藏内勇夫会長からの日本獣医師会のOne Healthの活動戦略についてのお話があり、最後に全員で討議が行われました。世界中の獣医師がOne Healthの理念を持って人類に貢献すべきことを再認識するとともに、国内外の獣医師や医師との連携の在り方について検討されました。

さらに、同日の午後には、日本小動物獣医学会の主催で「日本国内の繁殖施設で飼育されている猫における消化管内寄生虫感染状況」として研究報告が本県東支部の伊藤洋一先生によって講演されました。

28日(日)9時から、日本獣医師会主催の市民公開シンポジウム「食の安全を守る獣医師－管理獣医師を知っていますか？」が開催され、大石明子農林水産省消費・安全局畜産安全管理課課長補佐の基調講演のあと、大橋邦啓先生(北支部)が講演しました。

農場管理獣医師協会事務局次長である大橋邦啓先生は、肉牛飼育における管理獣医師の役割として、現場で従業員と会話を重ねながら意思の疎通を図ること、従業員から社長が給与をもらおうという逆転の発想による経営者の意識改革を起こさせること、経営者と従業員による牛の観察と記録をとり、事故の損失を減らしていくことが大事であると強調しました。

28日(日)午後から開催された日本獣医師会主催の教育講演「職業倫理の醸成－社会的信頼を得るために－」では、獣医師法に基づく行政処分を受ける事例が増加していることを背景に、獣医師への社会的信頼の向上を目的として、獣医師のコンプライアンスの徹底や職業倫理の高揚について、5人の先生方からの話と討論がありました。

そのほか「女性獣医師の就業継続とキャリアアップを目指して－支援のためのプラットフォームの構築－」や「診療料金の実態調査を通じて見えてくる家庭飼育動物医療の現状」など、今日的な課題や獣医師が関心ある事項に焦点を当てたシンポジウムも開催されました。

4 歓迎交流会

歓迎交流会は、秋田県獣医師会が主催して27日(土)の午後6時から秋田キャッスルを会場にして開催され



いまさら聞けない化学療法の使い方について講演する小林哲也先生(団体支部)



日本国内の繁殖施設で飼育されている猫における消化管内寄生虫感染状況について講演する伊藤洋一先生(東支部)



肉牛飼育における管理獣医師の役割について講演する大橋邦啓先生(北支部)

ました。

交流会の主催である秋田県獣医師会を代表し砂原和文会長から「多数の会員の皆様の友情に対し、心から感謝とお礼を申し上げる。この大会では、学会のほかに、食、文化、自然環境を柱とした市民公開講座を開催している。出席していただいて秋田の素晴らしさを発見していただきたい。」と挨拶がございました。



砂原和文秋田県獣医師会会長の歓迎挨拶



佐竹敬久秋田県知事の祝辞

続いて、学会並びに年次大会の主催者を代表して藏内勇夫日本獣医師会会長が挨拶したあと、来賓の佐竹敬久秋田県知事からは「今、秋田では殺処分ゼロを目指して動物愛護センターを作る計画でいる。保健衛生やペットブームで、これから先、獣医師の先生方の役割が増してくる。これからも、御苦勞をおかけするが、よろしく願いたい。」と御挨拶がありました。

さらに、穂積 志秋田市長、小森 貴日本医師会常任理事、富樫博之衆議院議員(自由民主党)が祝辞を述べた後、北村直人日本獣医師政治連盟委員長の乾杯により懇親に入りました。

歓迎交流会には、全国の獣医師会会員を始め、各学会の運営委員や行政機関など、関係の方々も含めて800名が参加し、和やかな雰囲気の中かで交流を深めておりました。



交流会にて
左から 中村滋副会長、
高橋三男埼玉県獣医師会会長、
大橋邦啓理事(北支部)、
小暮一雄副会長

終演にあたり、次期開催担当の石川県獣医師会の皆様が壇上に上がり、代表して八木幸隆会長が平成28年度石川大会への参加を心からお待ちしていると挨拶した後、午後8時に交流会はお開きとなりました。

なお、今後の年次大会の開催日程は、次のとおりです。引き続き会員の先生方の特段の御協力をお願いします。

平成28年度	開催地	石川県(石川県立音楽堂ほか、金沢駅周辺会場)
	期 日	平成29年 2 月24日(金)～26日(日)
平成29年度	開催地	大分県別府市(ビーコンプラザほか)
	期 日	平成30年 2 月

会務報告

平成28年度 集合狂犬病予防注射関係資材売買契約会

平成28年2月24日(水)午後1時45分から、埼玉県獣医師会事務局において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

獣医師会も厳しい状況になっているが、これからは関係する方々がお互いに成長していかないとよい仕事ができない。獣医師の病院は夜間病院や1人でも経営が継続できる病院になっていく必要がある。こういう病院からリーダーが1人でも2人でも出てきて欲しい。

2 協議事項

(1) 平成28年度集合狂犬病予防注射関係資材売買契約について

各社から提出された狂犬病ワクチン及び注射用資材等についての見積価格を比較検討し、資材ごとに見積の最低価格を契約単価として各社と売買契約を締結することとなった。

(2) その他

集合狂犬病予防注射実施班ごとへの資材納入に当たっては、各社が班長と十分に連絡を取り、資材が円滑に納入されるよう要請した。

第1回開業部会第1・第2運営委員会(合同)

平成28年3月9日(水)午後1時30分から、さいたま市「埼玉県農業共済会館」会議室において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

本日は新年度に向けて計画を立案する大事な会議であり、最初に獣医事を巡る情勢を全体で協議し、その後、第1、第2の委員会に分かれて、動物病院運営の総合的な検討と、災害時の埼玉県獣医師会と行政の連絡、協調体制の課題について協議してもらう。

2 協議事項

(1) 獣医事を巡る情勢について

獣医師数の推移、国家試験結果、獣医師処分などについて意見交換した。

(2) 会員の入会促進について

最近の情勢変化を踏まえて、会員の入会の促進方策等について検討した。

(3) 災害時における動物救護体制等について

災害時における動物救護について県と獣医師会との覚書を交わしたが、その具体策について県と議論等を行った。

3 各委員会

(1) 開業部会第1運営委員会

ア 入会の促進

入会の促進方策等について、委員から新規開業者への働きかけが必要、入会のきっかけがない、獣医師会活動に興味を持ってもらうなどの意見が出され、今後、入会案内のツールを作成してHPに公開することとなった。

(2) 開業部会第2運営委員会

ア 災害時における動物救護体制等について

委員から、日頃から市町村の防災会議等に獣医師会が入っていないくて、緊急時だけ召集されても連携は取れないのではないか、獣医科大学や近隣の獣医師会と協定を結んだらどうかなどの意見が出た。県からは覚書の細目協定を作成してもらいたいとの要望が出された。

イ 医薬品等の欠品について

医薬品の欠品について意見交換した。

ウ アライグマの被害等について

傷病野生鳥獣保護治療事業の保護飼養費にアンバランスが生じていることやボランティア制度をもっと活用することなどが話し合われた。

広告

動物 未来 みつめる ひろがる



ゼノアック

ZENOAQ

動物用医薬品 製造販売

日本全薬工業株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

代表取締役 **高野恵一**

URL : www.zenoaq.jp

第4回 狂犬病予防委員会

平成28年3月10日(木)午後1時30分から、さいたま市「埼玉県農業共済会館」会議室において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

埼玉県獣医師会の狂犬病予防注射の取組は評価されている。これは歴代の委員長、班長、実施者の先生方の理解の賜物である。

本日は班長の意見を聞きながら、実施者の負担とならないよう狂犬病予防注射をしっかりとやっていきたい。

2 協議事項

(1) 平成28年度集合狂犬病予防注射実施について

平成28年度における実施予定者、ワクチン等の関係資材の購入及び班別配布計画並びに班長提出書類等について協議し決定した。

また、事故が発生した場合には、実施者、班長、事務局、委員、支部長等がよく連携をとって、迅速・適確な対応を取ることにした。

(2) その他

近年の獣医師数や獣医師の法令違反など、獣医事を巡る情勢について意見交換するとともに、当面の課題について協議した。

第2回 班長会議

第4回狂犬病予防委員会に引き続き、平成28年3月10日(木)午後3時から、さいたま市「埼玉県農業共済会館」会議室において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

集合狂犬病予防注射は行政と団体とが連携した大きな事業であり、私たちが地域に貢献できる唯一の事業であると思っている。お客様に誠意を持って対応するのが埼玉県獣医師会会員であり、事故があった時には、皆で迅速に対応して欲しい。

2 協議事項

(1) 平成28年度集合狂犬病予防注射実施について

平成28年度の実施予定者、ワクチン等関係資材の購入及び班別配布計画並びに班長提出書類等について説明し、円滑な実施を徹底した。

また、事故が発生した場合には、関係者との連携や事故報告の提出などについて、迅速・適確な対応を要請した。

(2) その他

近年の獣医師数や獣医師処分等の情勢について報告され、当面の課題について意見交換した。

新聞紙上で集合狂犬病予防注射の実施を啓発

4月からの集合狂犬病予防注射の実施を控え、新聞紙上に県民向けの啓発記事を掲載しました。

年1回の狂犬病予防注射は飼い主ひとりひとりの責任		
集合狂犬病 予防注射の 季節です。		狂犬病は発症すると有効な治療法はなく、ほぼ100%死亡する人と動物の共通感染症で、アジア・アフリカ等海外では毎年5万5千人以上が犠牲になっています！ 人への感染防止には犬への狂犬病予防注射が最も有効です。お住まいの市町村が実施する集合狂犬病予防注射会場又はお近くの動物病院で必ず予防注射を受けましょう。
 埼玉県	市町村	受託団体(実施主体) 公益社団法人 埼玉県獣医師会 会長 高橋 三男

掲載日 3月19日(土)朝日新聞(埼玉県版)
3月19日(土)埼玉新聞(社会面)
3月20日(日)読売新聞(埼玉県版)

第4回 総務委員会

平成28年3月17日(木)午後1時30分から、さいたま市「埼玉県農業共済会館」会議室において次の事項を協議した。

1 会長挨拶

本委員会は6月の総会へ向けて尽力いただくが、よろしくお願ひしたい。本日は、この1年間の事業収支決算と来年度の事業計画、収支予算(案)について協議していただく。

2 協議事項

(1) 獣医事をめぐる情勢について

獣医師を取り巻く情勢について協議し、今後の対応について意見交換した。

(2) 平成27年度事業収支決算見込みについて

現時点における収支決算の見込みについて報告し承認された。

(3) 平成28年度事業計画並びに収支予算(案)について

新年度予算における事業計画や事業内容などについて協議した。

(4) マイナンバー及び公益法人制度について

顧問税理士の間嶋順一先生から、マイナンバーの使用範囲や管理を徹底すること、保有財産が3億円以上ある場合、財産債務調書を提出する義務があることについて説明があった。

新入会員の抱負 埼玉県獣医師会に入会して

西支部 小沢 一仁
(上福岡OZ動物病院)



院内にて飼う犬のパセリと

2015年に埼玉県獣医師会に入会させていただきました小沢一仁と申します。2015年2月にふじみ野市上福岡にて「上福岡OZ動物病院」を開院いたしました。

私は2010年に北里大学を卒業し、卒業後は東京の「吉田動物病院」、埼玉県志木市の「志木いわい動物病院」、さいたま市の「日進動物病院」で勤務させていただきました。吉田先生、岩井先生、建脇先生には診察や手術といった獣医師としての技術だけではなく、そのお人柄や考え方を通して人としての様々なことを学ばせていただきました。非常に恵まれた環境で勉強させていただけたことに感謝し、学んだことを日々の診療にいかしていきたいと思います。

私はもともと長野県塩尻市の出身なのですが、妻の出身が埼玉県で、御縁があり現在のふじみ野市上福岡にて開業する運びとなりました。ふじみ野市上福岡は昔ながらのお店が多

く、住んでいる方も気さくでアットホームな雰囲気のある土地柄です。近くには大小の公園がいくつかあり、子供も育てやすい環境で、この地で開業できて良かったと感じています。

獣医師会には勤務医時代より団体会員として所属していたこともあり入会させていただきました。入会当初より、所属している西支部の先生方には温かく迎えていただき感謝しています。まだまだ不慣れな事も多くご迷惑をお掛けしていますが、今後も獣医師会の活動を通じて地域社会に貢献できるよう努力していきますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いします。

西支部学術講習会開催報告

西支部学術委員 佐藤 博司

3月6日(日)川越南文化会館 ジョイフルにて西支部学術講習会を開催いたしました。病理組織診断CAPITAL代表 石原勇介先生をお招きし、『病理組織診断を最大限診療に生かす為に』という演題でご講演いただきました。

「動物病院の医療チームの一員として病理診断をする」との信念を持ち、熱意溢れる講習をしてくださいました。病理標本を送付する際の基本事項、剖面の入れ方、病理診断医と臨床獣医師の溝を埋めるにはどうしたら良いのか。ご経験をふまえて大変わかりやすく講演いただきました。講習をしてくださった石原先生とご参加いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

<参加者内訳>

出席者	さいたま支部	南第一支部	南第二支部	西支部	北支部	東支部	団体支部	会員外
30名	1名	1名	1名	20名	0名	2名	4名	1名

東支部研修旅行開催報告

東支部支部長 八木 賢裕

平成28年3月6日(日)から7日(月)にかけて、栃木県鬼怒川温泉あさやホテルにて研修をかねた支部旅行が実施されました。

今年の研修会も幸手市在住の日本獣医生命科学大学の竹村直行教授をお招きし、心臓の聴診について本格的に勉強をいたしました。

いつも行う聴診のわかっているようでわかっていないことなど、本格的なスピーカーを持参いただき熱心に語っていただきました。

その後、参加支部員は温泉に入り日々の疲れを流し、懇親会を開催し和気あいあいとした東支部らしい時間を過ごしました。

今年もお忙しい中、高橋三男会長もおこしになられ貴重なお話をいただきました。

参加者一同、来年もぜひという言葉을いただき支部長として大変うれしく思いました。



第133回埼玉県獣医師会ゴルフ同好会コンペ結果報告

埼玉県獣医師会ゴルフ同好会 会長 斎藤 和也
幹事 森田 良
中村 久江

3月10日、上尾市の大宮ゴルフコースにおいてコンペが開催されました。当日は心配されていた雨も降らず、参加した26名が和気あいあいとプレーを楽しみました。

神奈川県獣医師会からも山本先生、清水先生、平井先生の3名が参加され、地域の枠を超えた親睦ができたことも有意義であったと思います。

また(株)ビルバックからは小野様、只木様、MPアグロ(株)からは櫻井様、泉様の4名が初参加され親睦を深められました。

少々難しいコンディションの中、獣医師会を長年にわたり支え続けてこられた先生方がベテランの技を発揮され上位独占となりました。次回は若手の奮起に期待したいところです。

優勝 桑島 盛代 先生(東支部)
準優勝 石黒 富雄 先生(南第二支部)
3位 長嶋 成憲 先生(さいたま市支部)
ベストグロス 小堺 正人 先生 86

次回は7月7日(木)鴻巣カントリークラブにおいて開催されます。ゴルフ初心者の方も大歓迎です。
(初参加希望の方は森田まで 東支部 048-745-4871)



左から、2位 石黒富雄先生、優勝 桑島盛代先生、
3位 長嶋成憲先生

切り抜きニュース

春なのに 姿消す生き物
—温暖化影響か 観測休止続出—

5日は暦の上の「啓蟄^{けいちつ}」で、冬ごもりしていた虫たちが動き出す時期とされる。気象庁は1953年から、季節の移り変わりを動植物の様子でみる「生物季節観測」を続けているが、温暖化や都市化の影響で身近な生き物が見られなくなっている。

生物は、気象台職員が初めて姿を見た日を「初見^{けん}日」、初めて鳴き声を聞いた日を「初鳴^{しよめい}日」、植物は花の「開花日」などを記録に残す。ところが近年、観測が休止に追い込まれる事例が相次いでいる。

千葉県銚子市の銚子地方気象台では、トノサマガエルが2011年以降は見られない。毎年のように確認されたが、5年間も見られないのは初めて。かつて、東京都と神奈川県を除く45道府県で確認された。しかし、15年春に観測を実施したのは22県で、姿が確認できたのは栃木や三重など5県のみ。25都道府県はすでに観測をやめている。ホタルやヒグラシも休止に追い込まれている。ホタルは14都道府県で対象から外した。44都道府県で記録があるヒグラシも、現在は37都道府県しか観測を続けていない。

生物季節観測の対象動植物	
動物・鳥・虫	
.....ヒバリ	シオカラトンボ
.....ウグイス	ホタル
.....ツバメ	アブラゼミ
.....モンシロチョウ	ヒグラシ
.....キアゲハ	モズ
.....トノサマガエル	
(計11種)	
植物	
.....ウメ	ヤマハギ
.....ツバキ	アジサイ
.....タンポポ	サルスベリ
.....サクラ	ススキ
.....ヤマツツジ	イチョウ
.....ノダフジ	カエデ
(計12種)	

東京・大手町の東京管区気象台では11年、6種の観測をやめ、ウグイス、ツバメ、シオカラトンボ、アブラゼミ、ヒグラシの5種類に絞った。ただ「春告鳥^{はるつげどり}」とも呼ばれるウグイスの鳴き声は00年を最後に確認できない。地方都市でも変化が見られ、甲府地方気象台のヒグラシの初鳴は13年が最後だ。

生物の観測エリアは気象台の敷地内か、半径5*以内にある雑木林や水辺などで、職員が定期的に観測しに行く。敬愛大学国際学部非常勤講師の松本太さん(環境学)は「地球温暖化が進んでいるうえ、気象台がある都市部では開発による環境変化やヒートアイランド現象で、生物が生息しにくい環境になっている」と分析している。(鈴木逸弘)

朝日新聞 3月5日(土)

県内最古 縄文犬の骨発見
—蓮田の黒浜貝塚—

蓮田市の国指定史跡黒浜貝塚の住居跡から、縄文時代前期前半の約6200年前とみられる県内最古の縄文犬の骨が発見された。これまで最古とされていたのは、富士見市の国指定史跡水子貝塚で見つかった前期中葉約6千年前の縄文犬で、200年ほどさかのぼることになる。市教委は「縄文犬が狩猟の友として、家畜に近い状態で飼われていたことが確認できた」としている。

発掘調査は昨年9月から今年1月まで行われ、縄文犬はスズキやヒラメなどの魚の骨や甲骨類とともに出土した。見つかったのは頭の部分(約



県内最古とみられる縄文犬の左下顎の骨(蓮田市提供)

15㍓)で、体長約50㍓の柴犬系の成犬と見られる。市教委社会教育課は「おそらくメスと思われる」と説明する。

黒浜貝塚は、縄文時代前期前半の関山式土器から中葉黒浜式土器の時代まで連続と営まれていた遺跡。これまでに住居跡40軒以上が見つまっている。年代測定を行い、当時の食生活について調べることになっている。縄文犬の骨の一部は、市役所に隣接する市文化財展示館で展示している。

(横江初太郎)

埼玉新聞 3月9日(水)

iPSから目の主要細胞

—大阪大世界初成功 角膜も、動物で機能再生医療に可能性—

人の人工多能性幹細胞(iPS細胞)から、角膜の一部や水晶体、網膜など目の主要な部位の細胞をまとめて作ることに大阪大の西田幸二教授(眼科学)のチームが世界で初めて成功し、9日付英科学誌ネイチャー電子版に発表した。

目のレンズに当たる角膜部分をウサギに移植し、機能させることにも成功。iPS細胞による機能的な角膜細胞作製は初めてとしており、けがや病気で傷ついた角膜再生の臨床研究実施を2016年度末にも学内倫理委員会へ申請する。

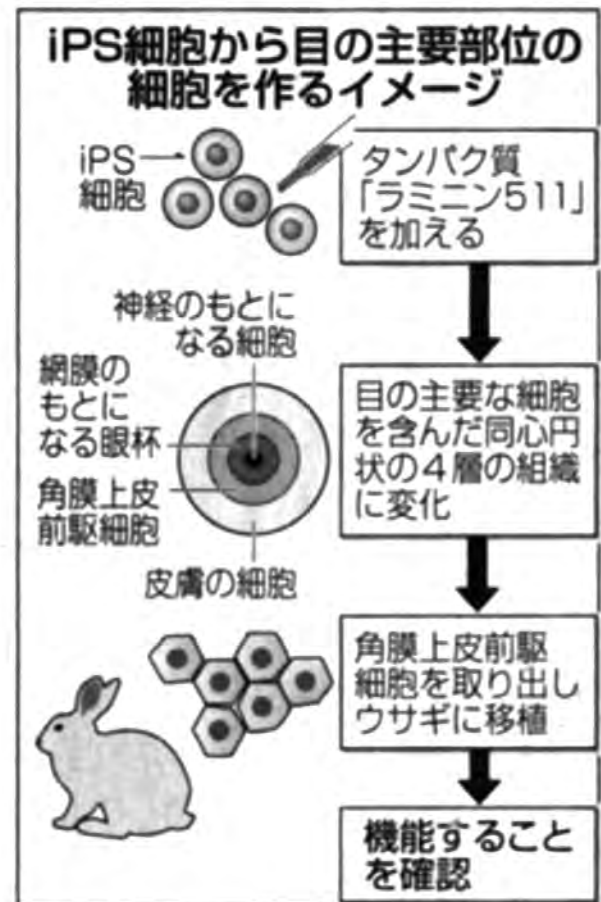
他の部位も含め立体的な組織ができたわけではないが、複雑な構造を持つ目の再生医療に将来つながる可能性がある。

チームは、細胞同士の接着を促すタンパク質「ラミニン511」を加えてiPS細胞を培養。約1カ月で目の主要な部位の細胞を含んだ同心円状の4層の組織(直径2～3ミリ)に変化した。

最も内側には神経のもとになる細胞が集まり、その外側の2層目には網膜のもとになる眼杯(がんばん)などが存在。3層目には角膜の一部となる角膜上皮前駆細胞や結膜の細胞ができ、4層目には皮膚の細胞ができた。水晶体は2～3層の境目にあった。

角膜上皮前駆細胞を取り出して重ね、シート状の組織にして、角膜のないウサギ7匹に移植すると2週間後も角膜が濁らず目が保護されていた。

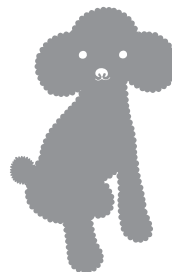
角膜は、薬の副作用で起こるスティーブンス・ジョンソン症候群などの病気、外傷や化学物質に



より傷つき、失明する場合がある。保存された他人の角膜を移植する治療では拒絶反応の懸念もあるが、iPS細胞から作った角膜ならその心配はほぼない。

人のiPS細胞から作製した網膜細胞は理化学研究所の高橋政代氏らのチームが14年、世界で初めて患者に移植した。

埼玉新聞 3月10日(木)



平成27年度埼玉県獣医師会学術広報版

(平成28年3月20日現在)

年 月 日	産 業 動 物	小 動 物	公 衆 衛 生
6月14日(日)		北支部 「麻酔モニタリングを読む」 山口大学 井芹 俊恵 先生 (熊谷市 熊谷市立商工会館)	
6月14日(日)		東支部 「とにかく尿検査、尿検査、尿検査！ 腎性蛋白尿を軽んじてはならない！」 日本獣医生命科学大学 竹村 直行 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
6月19日(金) ～21日(日)	第90回日本獣医麻酔外科学会／第102回日本獣医循環器学会／第57回日本獣医画像診断学会 2015春季合同学会 (さいたま市 大宮ソニックシティ)		
7月5日(日)		東支部 「皮膚科診療でペットオーナーの心をつかむ～継続診療につながるインフォームド・コンセントをしていますか～」 犬と猫の皮膚科 村山 信雄 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
7月19日(日)		南第一支部・南第二支部 「動画から学ぶ！犬および猫の下部呼吸器疾患について」 日本獣医生命科学大学 藤田 道郎 先生 (さいたま市 埼玉会館)	
9月13日(日)	平成27年度 関東・東京合同地区獣医師大会 (横浜) 獣医学術関東・東京合同地区学会 (神奈川県横浜市 パシフィコ横浜)		
10月4日(日)		北支部 「こんな心電図に要注意！～症例から見る心電図の読み方～」 麻布大学 藤井 洋子 先生 (熊谷市 熊谷文化創造館さくらめいと)	
10月16日(金)	北支部 「子牛の免疫についてⅡ(離乳～育成期)」 酪農学園大学 大塚 浩通 先生 (熊谷市 熊谷家畜保健衛生所)		
11月3日 (火・祝)		南第一支部・南第二支部 「難治性の下痢・嘔吐の診断・治療・予後(1)」 日本小動物医療センター 中島 亘 先生 (川口市 川口総合文化センター)	
11月8日(日)		東支部 「肝・胆・脾の診断と治療」 日本大学 坂井 学 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
11月29日(日)		西支部 「下痢・嘔吐の診療 (前半 下痢の診療)」 日本小動物医療センター 中島 亘 先生 (川越市 川越南文化会館)	
12月25日(金)	農林支部 平成27年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会 (さいたま市 さいたま共済会館)		
平成28年 1月17日(日)		さいたま市支部 「一人のできる 手術編」 南動物病院グループ代表 南 毅生 先生 (さいたま市 With You さいたま)	
1月22日(金)			衛生支部 健康福祉研究発表会 (さいたま市 県民健康センター)
1月24日(日)		西支部 「下痢・嘔吐の診療 (後半 嘔吐の診療)」 日本小動物医療センター 中島 亘 先生 (川越市 川越南文化会館)	
2月9日(火)	農林支部 関東甲信越家保業績発表会 (水戸市 県民文化センター)		
2月14日(日)		西支部 「耳科診療アップデート 耳炎撲滅にむけて…」 講師 臼井犬猫病院 臼井 玲子 先生 (東松山市 ホテル紫雲閣)	
2月26日(金) ～28日(日)	平成27年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (秋田) (秋田キャッスルホテル、秋田アトリオン、にぎわい交流館AU)		
3月6日(日)		西支部 「病理組織診断を最大限診療に生かす為に」 病理組織診断CAPITAL代表 石原 勇介 先生 (川越市 川越南文化会館)	
3月10日(木)			衛生支部 食肉衛生技術研修会 (さいたま市 県食肉衛生検査センター)
3月20日 (日・祝)		さいたま市支部 「がん治療最前線」 鳥取大学 岡本 芳晴 先生 (さいたま市 ソニックシティ)	
3月21日 (月・振休)		南第一支部・南第二支部 「放射線治療総論・各論」 日本獣医生命科学大学 付属動物医療センター助教 澤田 治美 先生 (川口市 川口総合文化センター)	

事務局より

事務局メモ

ホームページ会員専用ページ 入室は URL <http://www.saitama-vma.org/>

ID：SVMA（半角・大文字） パスワード：MITSUO（半角・大文字）

2月19日～21日 第12回日本獣医内科学アカデミー学術大会（神奈川県横浜市 パシフィコ横浜）

2月24日 平成28年度集合狂犬病予防注射関係資料売買契約会（さいたま市 埼玉県農業共済会館）

2月26日～28日 平成27年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（秋田）（秋田県秋田市 秋田キャッスルホテルほか）

3月1日 畜産懇話会（熊谷市 ホテルヘリテージ）

3月1日 埼玉県畜産会役員会（熊谷市 ホテルヘリテージ）

3月6日 西支部学術講習会（川越市 川越南文化会館）

3月9日 第1回開業部会第1・第2運営委員会（さいたま市 埼玉県農業共済会館）

3月10日 第4回狂犬病予防委員会・第2回班長会議（さいたま市 埼玉県農業共済会館）

3月17日 第4回総務委員会（さいたま市 埼玉県農業共済会館）

3月18日 平成27年度学校法人シモゾノ学園大宮国際動物専門学校卒業式（さいたま市 パレスホテル大宮）

3月20日 さいたま市支部学術講習会（さいたま市 ソニックシティ）

3月21日 南第一支部・第二支部合同学術講習会（川口市 川口総合文化センターリリア）

3月22日 埼玉県オーエスキー病防疫協議会（さいたま市 県民健康センター）

3月23日 第6回理事会、第7回理事会（さいた

ま市 埼玉県農業共済会館）

3月24日 第6回日本獣医師会理事会（東京都港区 日本獣医師会）

4月10日 平成28年度第1回関東・東京合同地区獣医師会理事会（川崎市 ホテルKSP）

5月31日 第1回日本獣医師会理事会（東京都港区 日本獣医師会）

6月8日 埼玉県獣医師会第68回定時総会（さいたま市 大宮ラフォーレ清水園）

6月22日 日本獣医師会通常総会・理事会（東京都港区 明治記念館）



編集後記

時の経つのは早いもの、もう4月だ。遅く感じるのは宝くじの発表位か？ 今年の冬は暖かった。このまま続くのか？ これでいいのか？

東日本大震災の発生から5年目の3月11日前後に一斉にメディアが取り上げた。未だに2,600余名の行方不明者がいる。県内避難者も5,100名、加須市には135世帯381人の方が帰りたい気持ちを抑えて住まいを構えたが、未だに「いわき」ナンバーの車が目につく。避難者の方々には一刻も早く帰れる環境を備えてあげるべきだし、我々としては出来る限り優しく支援してあげたい。

原発は、高浜原発の再稼働が出来ない。東電は福島第一原発がメルトダウンだったと5年経って発表した。呆れてものが言えない。国民は何を信用すれば良いのだ？ いつまで意地を張っていないで他の手を使って発電してはどうか？

2月24日の午後、集合狂犬病予防注射資材の契約会、3月10日には狂犬病予防委員会と班長会議が開催され4月の集合狂犬病予防注射に突入だ。

集合注射頭数は平成9年の18万頭超をピークに毎年平均約5千頭弱ずつ減少しているが、集合注射から病院注射に変わっていることも一つの要因である。18万頭という数は、県や市町村と県獣医師会の諸先輩の皆さんの努力があったからこそであり、諸先輩方の恩恵にあずかっていることを心に刻み、台湾でのイタチアナグマの発生が衝撃的だっただけに、獣医師として接種率を上げる努力をすることが最も大切なことである。

また、事故は初動が大切です。まず現場での対応をされてから班長>>委員>>県獣との連携を密にしながらの対応をお願い致します。

2月26日から28日に秋田県で平成27年度日本獣医師会主催の獣医学術年次大会が盛大に開催された。歓迎交流会では、砂原大会長の歓迎の挨拶に続く県知事の挨拶には「27日の新聞に一番人口減少の多い県が秋

田だが、この三日間は、1,400名の全国の先生方と同伴者の方々のおかげで2,000人は増えた」と感謝かたがた会場を沸かせていた。日本一の動物園の診療所を作ったとか、ロシアの大統領から寄贈された猫と数頭の猫を飼っている愛猫家のような。また、今年の宮崎で開催された肉牛の共進会では秋田牛が二等になったと言って獣医業に大変理解を示されている県知事の様でありがたいことである。

産業動物獣医学会のシンポジウムで「養豚獣医療の新たな取り組み」という演題でデンマークの獣医療の取り組みの発表は大変興味深かった。残念なことに講演会場は立錐の余地もなく立っているのがやっとで聞き取れない部分が沢山あったが、さわりの部分だけでも紹介します。

養豚に限らずデンマークの畜産は、国策として取り組んでおり、国のマニュアルに従い全生産農場と管理獣医師が一体となって、違反したらサッカーが盛んなお国柄、農場主ヘイエローカードが出され、ペナルティーとして厳しい指導が6ヶ月間されて達成できなければ1/3の規模縮小への行政指導がされるそうである。発表はまだまだ続いたのだが、日本もデンマークの真似をすべきではないか？ 自国で安心安全な畜産物に限らず農業全般、食べるもの全てに力を入れ、地産地消、海外輸出をも目指すべきである。こんな時代だ。豊臣秀吉の戦の様な兵糧攻めがいつ何時やって来るかわからない。

埼玉県からは市民公開シンポジウムで大橋理事と研究報告で伊藤洋一先生が発表された。また別の会場では5私立大学がブースを開いたりしていつもながらに同窓の懇親を深め、寒かったが夜も賑わっていた。

3月17日総務委員会、23日には理事会が開催される予定です。28年度の総会に向けての準備も着々と進んでおり、会員の皆さんの「会」の行事へのご協力を宜しくお願い致します。(不動)



日本獣医師会・獣医師会活動指針

－ 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。－

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領－獣医師の誓い－95年宣言－」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WSC）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。



株式会社 **アスコ**
http://www.asco.sala.jp

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本 社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地

TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

**営業所
所在地**

- ・東日本支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
東京、大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、福山、山口、米子、岡山
大阪、京都

胃腸と皮膚が気になる小型犬のための総合栄養食

Dr. CREDO No.1
ドクタークレド

- 食物アレルギーの原因となりにくい米と鶏肉を使用
- 優れた栄養バランスで皮膚・被毛の健康をサポート
- 健康的な腸内環境を保ち抵抗力を維持
- 抗酸化成分配合で毎日の健康を維持

本製品は小型成犬の健康維持をサポートするフードです。

『ドクタークレド』は、人の食品と同等基準の品質と安全性に、美味しさをプラスした動物病院専用フードです。
タイの世界的食品メーカー「ベタグロ社」の GMP・HACCP・ISO の認定を受けた工場で製造しています。



M 森久保薬品株式会社

神奈川県厚木市栄町1-8-17 TEL: 046-222-2333
東京: 042-564-2381 埼玉: 04-2908-0881 三重: 046-948-2112 神奈川: 046-221-0820
福岡: 092-643-1681 広島: 085-244-5278 群馬: 027-238-9322 新潟: 028-668-3399
京都: 075-241-5131 徳島: 0476-40-5811 札幌: 0475-24-1813